

令和5年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部（インフラの部）

ふ り が な	もりおかしどうぶつこうえんさいせいじぎょう
1. 事業（施策）の名称	盛岡市動物公園再生事業
2. 事業（施策）実施期間	（工事期間）令和3年10月12日 ～ 令和5年3月31日 （事業期間）令和元年 ～ 令和18年
3. 事業費（工事費）	事業費2,564百万円 うち 工事費1,967百万円
4. キーワード	里山環境＋動物園＋公園が合体した、ここだけの楽しさ
5. 事業概要	施設が老朽化し、かつ運営費用の大半を市に依存していた盛岡市動物公園（以下、動物公園）を、PPP エージェント方式による民間主導型の公民連携事業により再生した。民間事業者のノウハウを駆使し新たな空間を創出、民間が稼ぐことができる環境を整えることで、盛岡市の財政負担を軽減し、健全な自治体経営に寄与する。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 ：該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1) 「手段」		(e) PPP エージェント方式による、日本で初めての公民連携事業による動物園（公園）のリニューアル
アピールする 2) 「秀でた成果」	(c)、(j) デッキ等にはケボニー木材(※)を使用し、ライフサイクルコストの低減や、耐久性の向上を図った。 ※植物由来のフラフリルアルコールを加圧注入し、フラン樹脂化させた木材。ソフトウッドをハードウッドにする技術で、不朽菌が好まない物質のため腐りにくい。当事業ではヒノキ材をケボニー化させて使用した。	(a) 民間事業者の知見やノウハウを活かしたことで、質が高くかつ動物公園ならではの魅力ある空間が創出された。 (b) 民間発注工事 (9. (3)、(4) 参照) となることで、公共工事に比較して安価な発注が行うことができた。 (e) 園内に里山空間を創出、動物園と公園両方の魅力を体現した空間となった。

7. 特にアピールしたい点
<p>再生にあたり、事業の核となったのがランドスケープ設計である。動物公園が位置する岩山エリアの里山環境、都市公園や動物園のそれぞれが持つ魅力を最大限に活かした計画となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベースとなる里山環境の創出 → 里山にそぐわない要素（舗装面、針葉樹、市街地のような刈込）を減らし、視線の抜ける明るい森への転換 ・ 自然の中で楽しめる公園 → 気軽に訪れたい空間、多様なアクティビティを楽しめる空間、老若男女が自然を楽しめる場所へ ・ 公園の中に動物園を組み込む → 動物たちの近くでゆっくりくつろげる場所、人と動物と一緒に公園にいるような雰囲気へ <p>また、市の財政負担を軽減するといった観点からは、リニューアル前に市が動物公園の運営費として負担していた金額は2.92億円/年であったが、年間における市の財政負担額を現状より軽減できる金額要件でリニューアル工事を行っており (9. (4) 参照)、限られた予算内で最大限の効果を生み出した。</p>

8. 事業を代表する写真及びキャプション



アプローチ～エントランス部分を上空から望む



舗装を剥離し、園路に植栽帯を設ける

従前の動物公園は常に園路が目の前に広がり、園路沿いに動物が展示されているという風景になってしまっていた。(右図)

里山空間を再現すると同時に、来園者が、園路中心の体験から、展示ストーリーやコンセプトといったエリア毎の体験を連続的に実感できるような構成としている。



園路中心の空間構成



【アプローチ】

先を見通せない線形としワクワク感を演出。動物のサインとメッセージで来園者を出迎える。



【園路部分】

里山を再現するため園路に植栽を施した。里山にそぐわない樹木や植込みは伐採している。



【イヌワシフライングゲージ】

里山生態系の頂点に君臨するイヌワシが飛翔する姿を間近で観察できる。



【デッキテラス】

園内の各所にデッキテラスを整備。休憩したり飲食したり使い方は来園者それぞれ。



【キリンプラットホーム】

放飼場内に入り込むようなデッキを整備。迫力ある動物の姿を観察できる。

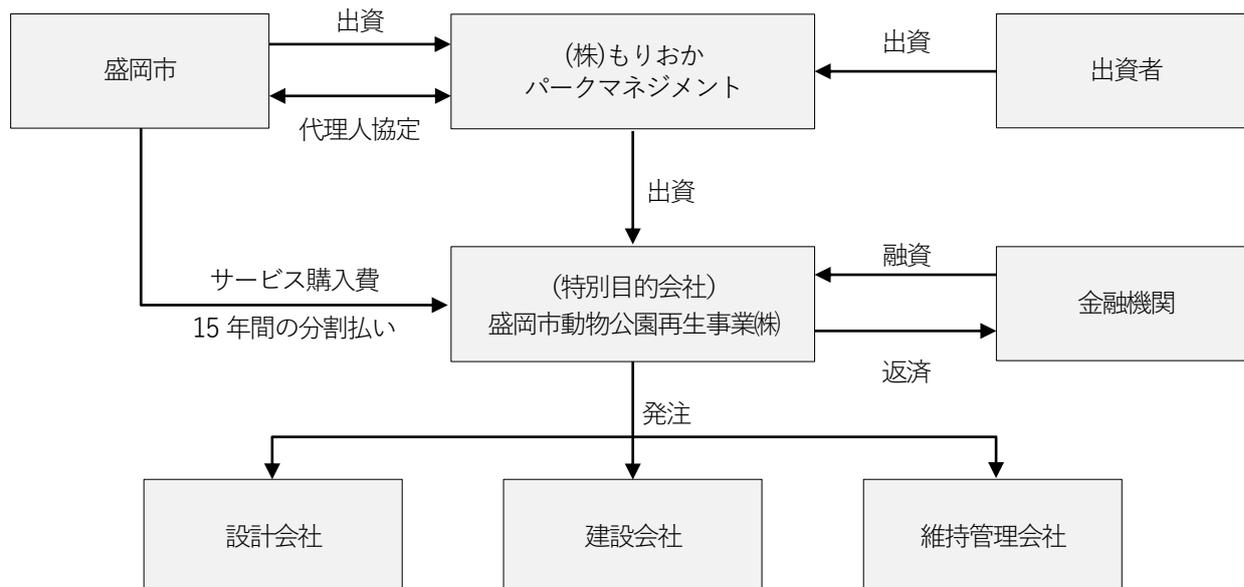


【カンガルーヒル】

リニューアル工事で最も大きく地形が変わったエリア。来園者はカンガルーの放飼スペースに進入して間近に観察できる。

9. 事業内容・添付資料

(3) 事業ストラクチャー



○株式会社もりおかパークマネジメント業務と役割

同社は盛岡市動物公園再生事業の代理人業務のほか、動物公園の管理運営者として、動物飼育展示事業、教育普及事業、収益事業、広報等を行い、収益性のある都市公園の利活用を支援し、市の財政負担の低減と公園及びその周辺エリアの価値を上げる役割を担う。

○特別目的会社の業務と役割

倒産隔離により金融機関から資金調達を行いやすくするため、特別目的会社である盛岡市動物公園再生事業株式会社を組成し、同社が設計、建設及び維持管理会社に発注、施設整備及び施設保守点検を行う。

(4) 事業実施による盛岡市負担額の削減効果

	リニューアル前	(再生事業)	2022年	2023～36年
運営費用	2.6 億円		2.29 億円	1.0 億円
施設整備等費用		19.68 億円 (国庫補助 & 借入金利含む)	1.09 億円	1.09 億円
保守点検費用		4.27 億円	0.28 億円	0.28 億円
維持管理費用	0.32 億円	1.89 億円	0.13 億円	0.13 億円
ふん尿処理費用			0.12 億円	0.12 億円
市負担額	2.92 億円	25.84 億円 (債務負担行為額)	3.79～3.91 億円	2.5～2.62 億円

15年間で合計5.01～3.21億円の市負担額の削減